



安心して生まれ、育ち、暮らせるふるさと生駒をつくろう

特集 新病院問題

生駒市、徳洲会を運営主体に決定、東生駒駅前での開設に向けて動き出す！

土地の賃貸借についても(株)近鉄と基本的に合意

ハイライト

- ・市、徳洲会に決定!!
指定管理者方式
東生駒駅前に
小児科・産科を含む
10診療科を予定!
- ・新病院の運営は
独立採算!
- ・市の財政負担は?
市は土地建物を負担
市からの補助金なし
毎年約6千万+借地料
と市、試算
- ・徳洲会はどんな病院?
問題いろいろ??
いや良い病院ですよ!
- ・市内の病院がなぜ今?
増床を計画か?
新病院開設に悪影響
も!

生駒市が新病院の運営者を公募したところ、11月30日、医療法人‘徳洲会’が指定管理者方式・東生駒駅前の土地を希望して応募しました。これを受けて、12月18日に新病院整備専門委員会、12月20日に市議会の新病院設置等に関する特別委員会が開催されました。新病院開設に向けて具体的な協議が始まりました。

1月18日、市は徳洲会を新病院の運営主体事業者と決定、また、東生駒駅前の土地の借地交渉において合意に達したとして県への開設許可に向けた協議を始める意向を表明しました。しかし、市内の病院から増床申請が出されているとの情報があるため、新病院が何床確保できるか不確定です。果たして2月か3月に開催

予定の県の医療審議会を経て病院開設の申請ができるか否か予断を許しません。

県は現在、本年4月からの新しい医療計画を作成中です。新病院開設申請ができればこの計画に組み込まれます。これは医療審議会が他病院の増床申請と新病院の開設をどのように調整するかで決まります。奈良県では産科をはじめ救急医療体制の不備が指摘されていますが、徳洲会は小児科、救急だけでなく産科も設置する予定です。多くの病院が救急医療から撤退する中、生駒市にできる新病院は、生駒が安心して暮らせる街であり得る鍵となります。生駒の未来のために新病院問題の行方に注目してください。



市長 “徳洲会との協議に入りたい”

新病院整備専門委員会 (12月18日)

1月・2月の予定

1/9	初出式
1/11	出初め式
1/14	成人式
1/20	環境シンポジウム (PM2-5 中央公民館)
1/27	新春経済講演会 (PM2- セイセイビル)
2/10	男女共同参画推進 条例制定記念式典 記念講演 (PM1.5- セイセイビル)

ホームページとブログもご覧ください!
http://
www.eonet.ne.jp/
~ikomanomirai

山下市長からの説明

1. 医療法人徳洲会だけから応募があった。
2. 徳洲会の財務評価を公認会計士に依頼したところ、書面にて、「病院経営を安定的に行うに足る収益力と財務内容を有している」と報告を受けた。
3. 徳洲会に対し理念や方針についてヒアリングを行ったところ、病院運営に係る理念・方針及び本市の中間答申の実現性に大きな問題はないと判断した。
4. 以上のことから、今後、運営主体として決定の上、より具体的な協議にはいきたい。

医療法人徳洲会とは?

医療法人徳洲会は理事長徳田虎雄医師が昭和50年に設立。『生命だけは平等だ』を原点に「生命を安心して預けられる病院」「健康と生活を守る病院」をめざしている。徳洲会グループは全国に64病院、海外に1病院、その他診療所、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどを運営。離島・僻地での診療にも力を入れ、災害医療救援活動(NPOTMAT: Tokushukai Medical Assistance Team)も行っている。(生駒市及び岸和田徳洲会病院の呈示資料より)

遅ればせながら、“生駒の街が少しでも住みよい町になりますように、皆様の声を市政に届けていきたいと思っております。今年もよろしくお願ひいたします。” まり子

新病院について徳洲会が示した構想は？ 小児科・産科など10診療科！

市の条件

- ・174床、広域二次救急輪番体制への参加
- ・最低限、内科、外科、小児科、整形外科を標榜
- ・病診連携の推進、地域完結型の医療をめざす
- ・中間答申の趣旨を基本にする

12月18日の新病院整備専門委員会では、徳洲会から提出された‘生駒市新病院運営主体応募に伴うヒアリング項目に対する回答書’が配られました。市の説明、回答書をもとにまとめてみました。

1：診療科

内科、消化器科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、循環器科、脳神経外科、リハビリテーション科、放射線科

2：診療体制・診療時間

- ・外来診療 月～金 AM9～12 PM5～7
土 AM9～12
- ・救急診療 24時間、年中無休で受入れる。

3：中間答申の実現性について

- ・救急への対応については、各診療科の連携で二次救急に適切に対応する。
- ・疾病予防機能の強化・在宅支援機能の充実・開放型病床の設置・地域医療機関への医療教育プログラムの提供・医療明細の呈示などの実施、取り組みを約束。
- ・医師会入会希望。地域の医療機関との連携を実施。
- ・病院に関する一般的な情報はオープンにする。経営情報を含む情報開示・運営協議は今後の協議に委ねる。

- ・病児保育施設・緩和ケア病棟は開設当初からの設置は困難。中期的な検討課題。
- ・急性期医療の必要な高齢者は救急患者として受け入れる。

4：その他

- ・経営基盤の安定、人材・医療機器の有効活用の観点から250床程度必要。市・県の配慮を。
- ・医療における安全管理に力を入れる。
- ・心臓血管外科の設置を中期的課題として検討。

徳洲会の新病院における運営方針

『住民参加・住民管理・住民監視』の姿勢で医療を提供する。

病病・病診連携を密に地域医療の向上に貢献する。これが実現されれば素晴らしい！

委員会では本当にこれだけ盛りだくさんのことが実現できるの？と疑問の声がありました。私は是非、実現していただきたいと思っています。

市の財政負担は？

新病院設置等に関する特別委員会（12月20日）

市の条件（指定管理者方式の場合）

- 生駒市・土地と建物を用意
医療機関（独立採算で病院運営）
- ・医療機器等を負担
- ・建物の減価償却費と同等額を一定時期から市に納付

自治体病院の8割が赤字経営といわれているのに、今、生駒市が病院をつくって大丈夫？という声もありますが…

20日に生駒市が呈示した試算では建築費は約50億円。この額は徳洲会が応募する前に174床の病院建設にどれくらい必要か市が試算したもので、実際にはどのような診療科、どのような機器を整備するかにより変わります。建設費には企業債をあてます。元金は5年据え置き、30年返済。建設費の30年間の利息合計は約22億円です。合計約72億円になりますが、企業債には国からの交付税措置があります

し、病床数に応じた交付税や小児医療病床設置、救急診療などに交付税が出ます。病院経営が軌道に乗ってから（市の試算では開設6年目から）の毎年の市の持ち出しはほぼ一定の約5千6百万円＋借地料（借地については基本合意するも未公開）となります。この支出に対し、平成18年度、約2億8千万円の赤字となったふれあい振興財団の事業見直しなどを検討しているとの説明がありました。

自治体病院は通常直営（公設公営）です。生駒市の新病院は、経営ノウハウのない市による無駄な支出を避けるため、指定管理者制度、つまり、公設民営となりました。経営が安定している奈良市立病院も指定管理者制度。100万円以上の施設整備や機器購入は市が負担する奈良市に比べ、生駒市の条件では市の負担が小さくなっています。さらに、患者数や人件費などに左右される医業収支には生駒市は関与せず、たとえ赤字が出て市がかぶることはありません。逆に、生駒市では指定管理者が市に納付金を収めることを求めています。

徳洲会は信頼 できるの？

徳洲会のヒアリングに対する回答はまさに市が期待するものでした。しかし、市民の間には「本当にやってくれるの？」という疑問の声もあります。それ以外にも多くの批判や懸念もあります。徳洲会は本当に信頼できるのか、これまでの情報から考えてみました。

私が『市民のための病院を』と生駒市に訴え続け早3年になります。これまで徳洲会がこの病院づくりに係わるとは思ってもみませんでした。徳洲会とはどんな病院？全く未知数でした。急遽、12月議会の合間をぬって議員6人で岸和田徳洲会病院を視察に行きました。

いい病院ですよ
という声も！

- ・家族が治療を受けたがとても親切。
- ・治療を受けましたがよかったですよ。
- ・徳洲会は医療の質を上げながらコストを下げるために努力をしている。
- ・まじめな医療をしていますよ。

徳洲会は医師会と仲が悪い？独断専行で地元自治体や医師会と協議をしない？

この話は医師の間で起きたことがあります。また、“新しい病院ができると患者をとられ経営が悪化する”ということは十分に予想できます。新しい病院開設に反対したくなるのは人情でしょう。

徳洲会は30年間に64もの病院を開設したので医師会とかなりの軋轢が生じています。徳洲会は医師会に入会しないという批判もあるようですが、現在では64病院の約半数が入会しており、逆に、徳洲会が入会を希望しても受け入れない医師会もあるようです。実際に私が視察した岸和田徳洲会病院は医師会に入会し病診連携もうまくいっているようでした。本市における医師会との関係は、中間答申・募集要項のいずれにも明記されていますので、中間答申の実現を目指すことにより解決できるのではないかと考えます。生駒市では昨年末に、医師会代表と徳洲会の間で協議が行われたと聞いています。この懸念はこれから市、医師会、徳洲会の3者が歩み寄り協議を重ねていくことで解決できると考えます。市民の命に関わることです。十分話し合っただけで地域医療を充実させてほしいと思います。市のリーダーシップを期待します。

徳洲会は医療費の不正請求をしている？

徳洲会の徳田虎雄理事長は選挙違反をした？

については、昭和62年7月の衆議院決算委員会において、八尾徳洲会病院で基準看護の不正受給があり、1億200万円の返還命令と戒告処分が行われたという情報や、徳田虎雄氏が出馬した昭和61年の衆議院選で選挙違反があり告発を受けたという情報があります。市はこれらの事実関係を確認すると共に事実であれば再発防止策を求めるべきです。

徳洲会では本当に医師確保は心配ないの？

徳洲会は大学病院に頼ることなく自前で医師を育てているので、医師不足は心配ないと思っている人もあるようです。しかし、続けての新病院開設に医師確保が難しいとして内部でも反対意見があったようです。私が学生の頃には救急の現場でばりばり働きたいという学生が就職しました。しかし、医師の資質も変わりました。まずは自分の生活を大切にしたいという学生が増えてきているように感じますので、十分な医師確保ができるか心配です。この懸念については徳洲会に医師確保を要請するだけでなく、これまで交渉してきた大阪医大や地元の奈良県立医大にも、市長と議会が一致協力して医師派遣の要請に出向いてほしいと考えます。

徳洲会はいくつも訴訟を起こしている？

病院開設には県の許可が必要です。通常、基準病床数の範囲内でないと開設許可はありません。いくつかの県では、徳洲会の開設申請とそれに対抗するかのような既存の医療機関の増床申請が重なり、基準病床数を越えました。徳洲会の訴訟の多くは、県が行った徳洲会に対する開設中止勧告の撤回を求めています。徳洲会が訴えられているわけではありません。訴訟の中には県の判断の公平性に疑問が残るとして県が敗訴した例もあります。

私は、徳洲会に関するさまざまな懸念は、中間答申の実現により解決できると考えます。大切なことは、相手が徳洲会しかないとして、市が安易な譲歩をしないことです。これから20年間、指定管理者というパートナーとして病院事業を興すのですから、市は言いづらいことも踏み込んで言って、市民にとって安心できるよい病院を創ってほしいものです。



12月議会

一般質問

“新病院の整備
について”より

Q：中間答申の実現性は？

Q：伊木 A：市長

A：実現できると考えてよい。

Q：地域完結型の医療実現への具体策は？

A：これから協議していきたい。

Q：病床数確保を含めた県への働きかけは？

A：県に特段の配慮を求めていく。

伊木から市長への要望：

1：大分県中津市などの先進事例を参考にして、運営主体と共に、生駒に於いて理想的な地域完結型の医

療を実現してください。

2：議会も新病院を望んでいます。審議時間が不十分であるとして議会が市の計画を承認しないことになれば、それは、市長・議会いずれにとっても、市民への背信行為。十分な審議時間の確保を求めます。

3：新病院開設は、生駒市民のためだけでなく、西和医療圏全体の医療提供体制の充実につながるもの。“住民のために病院をつくりたい”という市の姿勢をしっかりと県に伝えてください。

新病院への期待と問題点

なぜ今、他病院から増床申請?? 用地・医師の確保は? 市民参加でつくる市民のための市民の病院はできるのか?

朝日新聞(1月14日朝刊)の一面トップは“救急撤退 235病院”“医師不足、当直できぬ”という記事でした。医師の不足が深刻な時期に、生駒市では新病院開設に向けて、徳洲会との交渉が始まりました。17日、阪神大震災から13年を迎えました。もし生駒断層が動けば多数の死傷者ができると想定されています。救急車を呼んでも受け入れ先の病院がない!想像しただけでぞっとします。このような時だからこそ、地域医療の中核となる公的病院が一日も早くほしいと私は願っています。私たちは新病院整備専門委員会で、生駒市内に不足している医療は何か、200床足らずの病床を使ってどんな医療が提供できるか、望まれる病院はどのような病院かを議論し、中間答申をまとめました。中間答申が実現できれば、生駒総合病院閉院後欠落していた二次医療を提供する病院が整備されるため、生駒市は一次・二次・三次の医療機関がそろった街になります。また、生駒市の住民のためだけでなく、西和医療圏の医療提供体制の充実につながります。生駒はもっと住みやすくなると確信しています。

しかし、徳洲会との交渉以外にも問題はあります。

1つ目は用地確保です。12月の委員会では委員から“本当に借りられるのか?”という声があり、用地確保を心配していましたが、1月18日、(株)近鉄との借地交渉について市長から、“公益施設であることを配慮していただくことにより賃貸借について基本的に合意に達することができ、詳細については今後詰め協議をすることとなりました”と報告がありました。誰にでも受診しやすく便利な駅前一等地ですが、市民の血税を投入するのですから、妥当な価格での交渉成立を希望します。

2つ目は生駒市内の病院が増床申請をしているとの情報です。どの病院かは不明です。徳洲会は経営

安定のために250床を希望していますが、この増床が認められたら、新病院の病床数は250床はおろか174床よりも減ってしまいます。これでは病院経営は成り立たなくなり、新病院の開設は困難になるかもしれません。市内の某病院はといったような医療を充実させるために増床するのでしょうか?私は新病院と既存の病院の協力による地域医療の充実を求めてきました。新病院との良好な病病連携は市民だけでなく、既存の病院にとっても救急患者の搬送、検査の依頼、セカンドオピニオン、教育プログラムの提供など有益なはずですが、そのためにはまず新病院ができなければなりません。また、増床を認めるか否かを判断する県の姿勢も問われます。

3つ目は医師確保。徳洲会は毎年新卒医師を研修医として受け入れ育てているため、医師不足が社会問題となっている今日でも、医師には比較的余裕があるようです。しかし、十分とは思えません。それには前述(3ページ)のように市長・議会も一役買うべきです。

4つ目は中間答申の実現です。徳洲会の回答は中間答申の内容をほぼ満足しています。しかし、実現されなければ答申は絵に書いた餅。市が、今後、徳洲会と協定書を結ぶ等の交渉の中で、どのように中間答申の実現を担保するかが鍵になります。幸い市長は弁護士。先進事例を調査し良い協定書をつくってくれることを期待しましょう。

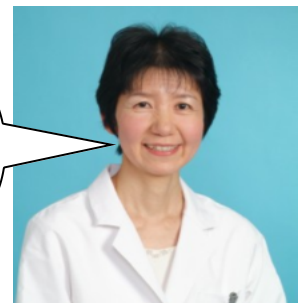
しかし、何より大切なことは市民のチェックと参加です。新病院は国保連合会の直営であった生駒総合病院とは違い、生駒市がつくる病院です。中間答申にも盛り込まれていますが、市民・患者が病院の活動・運営に意見を言える病院です。つまり市民参加のできる病院です。全ての市民が参加して生駒市に必要な病院に育てていく、そのような活動が必要です。



編集後記：救急車が30もの病院から受け入れを断られ死亡した89才女性の記事を見て、突然脳出血で倒れ生駒市の救急隊にお世話になった義母を思い出しました。幸いすぐに病院に搬送され手術を受け、70才まで17年の寿命を得ました。母が受け入れを断られ亡くなっていたら、どんなにつらかったことかと思えます。新病院が開設され救急体制が充実することをなによりも望みます。また、救急を受け入れる小児科の現場は過酷だといわれています。過労の中でうつ病を発症し自殺した医師もおられます。だれ一人、そんな現場では働いてほしくありません。疲れ切っ

た状態では適切な判断もできません。医療ミスもおこります。徳洲会の医師の勤務はハードで、体力が必要だと言われています。余裕を持って働くことのできる職場、そして、子育てのために退職し、再就職を希望する女医の能力を生かせるような勤務体制の職場、そんな新しい勤務環境を提供する病院ができてほしいと思っています。医師が魅力を感じる病院には若い医師が集まります。医師が生き活きと働く職場では周りのスタッフにも活気があり、患者さんにも喜ばれることでしょう。そんな病院が生駒の街にできることを願っています。

大切なことは、市民のチェックと参加!! 市民の手で市民の病院に育てましょう。



お願い

まり子ニュースの輪を広げてください。今回は新聞折り込みにしましたが、通常はポストイング、郵送などにより、生駒市内に約1,000枚お届けしています。住所がわからずお届けできない方、また、「知り合いや近所に配ってあげるよ」という方がありましたら、どうかご一報ください。 TEL/FAX 0743-71-6601